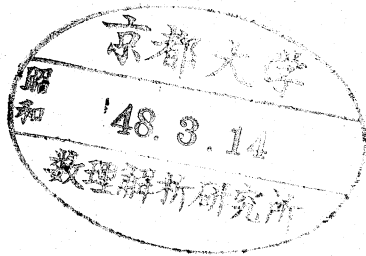


K-510

数理解析研究所講究録 170

特異点の位相幾何学



京都大学数理解析研究所

1973年1月

特異点の位相幾何学研究会報告集

1972.6.13 ~ 1972.6.15

目 次

「序文」	研究代表者	加藤 十吉	1
1. 「特異点の位相幾何学 案内」			2
	東大 教養	加藤 十吉	
2. Projective hypersurfaces について			24
	東大 理	岡 睦雄	
3. Almost complex manifolds and Hirzebruch invariant for isolated singularities in complex spaces			36
	東大 理	森田 茂之	
4. Problems			57
	東大 理	森田 茂之	
	東大 理	岡 睦雄	
	都立大 理	渡辺 敬一	
	学習院大 理	水谷 忠良	
5. 2次元 normal singularity について			62
	都立大 理	渡辺 敬一	
6. On homotopy p^5			78
	東大 理	福原 真二	

7.	Embedding manifolds in codimension two	82
	東北大理 佐藤 肇	
8.	小平次元の加法公式について	88
	名大理 中村 郁	
9.	Relative spinnable structure について	94
	学習院大理 水谷 忠良	
10.	ISOLATED ENDS OF OPEN LEAVES OF CODIMENSION-ONE FOLIATIONS	104
	東大理 西森 敏之	
11.	Milnor fiber の連続性と Singularity の次元	113
	東大 教養 加藤 十吉	
	東大 理 松本 幸夫	
12.	三次元の孤立奇特異点の解消について	128
	京大 数研 藤本 明	
13.	$S^4 \times S^2$ 上の free involution について	138
	中央大理工 松江 宏文	
14.	A classification of simple spinnable structures on S^{2n+1}	143
	東大 教養 加藤 十吉	
15.	Weighted homogeneous polynomial で定義される Milnor fibering の Seifert matrix について	155
	東大 坂本 幸一	

「序文」

研究代表者 加藤十吉

1960年代の位相幾何学の発展にはめざましいものがあつた。多様体の構造に関する限り、その成果は窮極目標に集積したと云えよう。そしてこの1970年代には他の諸構造の研究とのかゝりにおいてその蓄積された力を試練することが課せられた。私共は特異点の周辺の幾何学においてそれをごゝる時、同時に多様体という generic な図形から特異点を許容する図形を対象として含める一般幾何学を位相幾何学の立場から研究しようとしている。暗中摸索の2年間の後、その方向を示唆するいくつかの成果が得られ、こゝに研究集会の機会が与えられた。そこでは代数幾何学と位相幾何学双方の若い研究者が夫々の成果の解説の中から実質的に利益を交換し合い、両分野の緊密な接点をいくつか見出し得た。そして双方とも特異点の幾何学の夜明けを知ると同時に互に欠くことのできない協力者であることを確認した。私共は今迄発見に立ったという認識を新たにこの講義録を捧げたい。